

第11期 インターニシツプ便り



はじめに

私たちは、二月から三月末まで、豊中市議会議員、松岡信道議員のもとでインターニシツプをしました。

メンバー紹介と役割

○メンバー

関西学院大学
法学部政治学科一回生
広報担当 河本 直樹

このインターン便りの担当。新しい物好きで、限定品好きです。

今回のインターニシツプは、議員の方々がどのような生活をしているのかを実際に知ること、議員に対する疎遠感を払拭したいと考え、志望しました。

○メンバー

大阪大学
工学部応用自然科学科一回生
調査担当 青井 祥子

曲がったことが大嫌いの引っ張り役。とても意志が強く男勝りです。

私は理系で化学系の職に就きたいと思っておりますが、その前に社会勉強として議員はどのような仕事をしているか実際に経験してみたいと思います。志望しました。

○メンバー

関西学院大学
社会学部二回生
サポート担当 魚谷 尚之

ムードメーカーでツッコミ上手。いつもメンタル面で助けられました。

私は今までアルバイトや遊びに時間を費やしてきました。

二十歳になった今、自分を多面的に成長できる活動に時間を費やしたいと考え、様々な活動を行う議員さんのお仕事に触れて、アルバイトなどでは経験できない社会勉強をしようと思ひ、志望しました。



河本 魚谷 青井

○役割分担について

役割分担は、広報担当、調査担当、サポート担当と分かれています。

広報担当は、インターン便り作成や、パソコンでの作業の手伝いなどを中心となって行いました。

調査担当は、豊中市を通る北大阪急行線緑地公園駅と、阪急宝塚線曽根駅の間にバスを通すべきかを中心となって調べました。

サポート担当は、調査・広報担当のサポートに回り、また、出欠確認の連絡など、松岡議員との調整役を担いました。

活動報告

○豊中ラグビースクール

松岡さんは、休日には豊中ラグビースクールのコーチとして小・中学生指導に当たっています。私たちも小学生の練習に参加して、子どもたちと汗を流しました。

○松岡インターンOBとの交流

松岡さんのもとで、以前、インターニシツプをされていた先輩方のお話を伺う機会がありました。異なる時期に活動されていた先輩方のお話から、松岡インターンがたどった歴史の深さを知りました。先輩方は大手企業、大学院など、様々な道に進まれており、自分たちも先輩方のように成長した姿で松岡議員と再会できる日が来るよう成長していこうと思ひました。

○防災委員会

南丘小学校区で防災意識向上を促す活動があります。この活動にも松岡さんは参加していて、私たちもその会議を見学したり、その一環としての防災研修会での会場運営を手伝ったりしました。

防災研修会の準備として、防災委員の方々や、松岡さんの間で、この研修会に近隣住民を出席させるためのイベントの告知方法や当日の会場運営など様々な点で議論がなされていました。時には、声を大にして松岡さんたちが発言されている姿を見て、地域住民のために必死に取り組む真摯さに感心しました。

その議論の場から、多くの人が納得いく結論を導くために、一人一人が自分の意見をはっきりと伝える積極的な姿勢が必要であると学びました。

○事務作業

私たちは、松岡議員が行っている活動の一つである支援者への活動報告と挨拶状の発送作業のお手伝いをしました。朝から夜まで、大量の封筒に活動報告と挨拶状を詰め合わせるこの作業に、時には、心が折れそうになりました。

私たちは、この作業から、議員の方々は、このように、単純かつ地味な作業を時には行う、想像以上のハードワークである、ということを学びました。



南丘小学校での防災研修会

○駅立ち

私たちは、豊中市の様々な駅で朝七時から朝九時の間、松岡議員の活動報告のお手伝いをしました。また、数回ほど、私たちの意見をマイクで演説させていただく機会を設けてもらいました。

街頭ということもあり、緊張して、自分の考えていることがなかなか表現できなかったり、立ち止まっていただけの方も少なく、気持ちしが沈むこともありました。

しかし、街頭演説をする松岡さんはハキハキと自分の伝えたいことを話されていました。私たちもこの姿を見て、大勢の前でもハキハキと話せる度胸や、人に話を聞いてもらうための話し方・話す内容を充実させて、さらなるトークスキルを身につけたいと感じました。

○弘済院小・中、天満中学校見学

松岡議員がボランティアを行っている弘済院小・中学校、そして、地域連携型学校教育の例として大阪北区の天満中学校へ見学に行かせていただきました。

弘済院小・中学校は、親によるネグレクトや暴力などにより傷ついた児童・生徒を受け入れる学校です。私たちは、この学校の生徒と授業などを通して触れ合う機会があり、彼らは、深刻な家庭問題を抱えているにも関わらず、明るく活発で、子どもたちのもつパワーに圧倒されました。

天満中学校は、卒業生・保護者が在校生に勉強を教えたり、地域の人々が職場体験学習に協力するなど、地域とのつながりで、学校の教育環境を活性化している学校です。

私たちは、これらの学校見学から、子どもに対する親の非行が数多くある現実、学校教育の向上を促す地域とのつながりなど、私たちが知らない現実や、新たな教育の形を見ることができました。



←天満中学校



弘済院
小・中学校→

○バス路線の調査

豊中市の阪急曽根駅〜北大阪急行緑地公園駅間では、以前から、公共交通機関がありません。両駅付近の住民からこの区間の移動が困難である、という声を聞き、バスを通したら移動が楽になるのではないかと考え、バス運行の可能性の調査を始めました。

曽根駅付近には、中央公民館などの豊中市の公共施設があり、緑地公園駅付近には、駅をはじめ服部緑地公園などがあります。バスを運行させれば、両駅付近の住民はどちらへも行きやすくなります。

両駅付近で、私たちは住民アンケートを行い、現在の移動手段や、曽根駅、緑地公園駅近くで利用する施設はあるか、バスを通すことに賛成か反対か、などを聞きました。このアンケートから、緑地公園駅付近の住民は、豊中市のイベントが行われる公共施設へ行きづらいたことがわかりました。また、調査を進めていくうちに、緑地公園駅付近において、市議会選挙の投票率が低いこともわかりました。

住民アンケート以外にも、バス会社や市役所など、バス運営に携わる多くの方々に関き取り調査を行いました。地域の問題をこれほど深く考えたことはなく、私たちは、一つの政策立案にかかる苦労は並大抵なものではないと実感しました。

おわりに

二か月間を振り返って、インターン生は一人ひとりどのような気持ちでいるのかを最後にお送りします。

河本：私はこの二か月間で、社会に出ることの厳しさを感じました。報告・連絡の大切さ、具体的に話すことの大切さ、「なぜ」と自問自答することの大切さなど、このインターンシップで学んだことは、一生必要となる力です。このインターンシップで学んだ、「社会は厳しい」ということを肝に銘じ、社会に出る準備を大学でしっかりしていこうと思いました。

青井：私は、地域との関わりの大切さを学びました。自治体主催のフェスティバルや地域子ども教室フォーラムに参加させていただき、地域の大人たちが一丸となって子どもを見守り育てようとする姿を見ました。子どもに支えてくれた方たちへの感謝の気持ちで育まれ、大人になったときに育てる側になる循環が成り立つよう、私も地域行事に積極的に参加しようと思いました。

魚谷：私にとって、この二か月間は、今までの長期休暇とは全く違い、学ぶことの多い濃密な時間が過ごせました。マスクを付けながら挨拶をして、よく注意され、挨拶のマナーを学びました。自分の言動に「なんで？」と理由を問われることもしばしばあり、これからは発言する際には論理的に相手に伝わりやすいように心がけようと思いました。

二か月間、

ありがとうの気持ちです。